

## ハッ場ダム研修旅行

10月22日(木) 場所 ハッ場ダム

## 概要

民主党政権の時、ダムの本体工事以外ほとんど完成していたのに「コンクリートからヒトへ」のスローガンのもと、工事中止が宣言されてから6年、本格的に工事が再開されたハッ場ダムを見学しました。

道の駅「ハッ場ふるさと館」2階会議室で30分の講義を聞き、その後マイクロバスで90分、昨年からはまったダム本体工事現場を中心に、我妻川両岸の関連整備事業を端から端まで見学しました。

利根川に流れ込む沢山の支流（最近洪水になった鬼怒川もそのひとつ）の中で、ダムが一つもなかった吾妻川流域に利根川流域最後のダムとして計画されたのがハッ場ダムである。昭和27年から利根川改修改定計画の一環として調査が開始され、平成5年に現地対策事務所が設置され、着々と周辺工事が進んでいたところ、平成21年9月、突然前原国土交通大臣が中止を表明しました。



その後、平成23年12月ダム建設工事の継続が決まり、平成26年にダム建設工事が再開され、新技術を採用した5径間連続PCエクストラドーズ橋のハッ場大橋、3径間連続PCラーメン橋の中央長野原橋などの美しい6本の橋、高台に移転した立派な小学校・中学校の校舎とそのグラウンドやプール、水没する各集落の連帯を維持するよう配慮された移転住宅、移設された国道と新しい道の駅、鉄橋を含めて移設されたJR吾妻線と新しい駅とその周辺、そして甦った新しい温泉宿などなど、周辺事業は見事に完成していた。

紅葉真っ盛りの吾妻渓谷は今回のダム建設で3分の1が水没するが、吾妻峡橋からダムまでの吾妻渓谷遊歩道は残り、これからも楽しむことができるとのこと、安心しました。



今回我々は、水没する河原湯温泉を支援する群馬県の宿泊費助成制度を活用し、300年以上の歴史を誇り、真っ赤な紅葉の映える「山木館」に泊まり、群馬名産の上州牛石焼や蒟蒻料理、吾妻渓谷清流山女の塩焼き、赤城時雨大根そば、そして松茸ご飯を堪能した。「山木館」の廊下には江戸・明治・大正・昭和の頃の宿の風景画が飾られ、往時の繁盛ぶりがよく理解できた。日本3大温泉である草津へ江戸から行く時の経由地の温泉として繁盛したようで、車社会の現在では、道の駅がウィークデイなのに、シニアの人々で賑わっていました。

夕方、参加メンバーが持参した「ドローン」を近くの駐車場で飛ばし、その素晴らしさを実感しました。

## 参加者の一言

- ・大型土木事業の政党による方針の差など、考えさせる事もあり大いに勉強になりました。

